

かわら 飯田市川原遺跡 現地説明会資料

一般財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

1 はじめに

発掘調査は天竜川下久堅地区築堤護岸工事に伴って実施しています。調査の結果、主に縄文時代中期～晩期(約4,500～3000年前)の集落跡などがみつかりました。

また、一帯は過去の天竜川の氾濫による洪水砂が厚く堆積している様子が観察されました。

2 調査の概要

- 所在地 しもひさかたちくだい 飯田市下久堅知久平 1993-1 番地ほか
- 調査面積 1,705 m²
- 調査期間 平成28年8月24日～12月中旬(予定)
- 遺跡の立地 天竜川左岸の段丘上で、標高382m、天竜川との高低差4mの低位に位置します

発見された主な遺構と遺物

遺構：たてあなじゆうきよあと 竪穴住居跡8軒(縄文時代中期4軒、後・晩期4軒)
どこう 土坑13基(縄文時代以降)

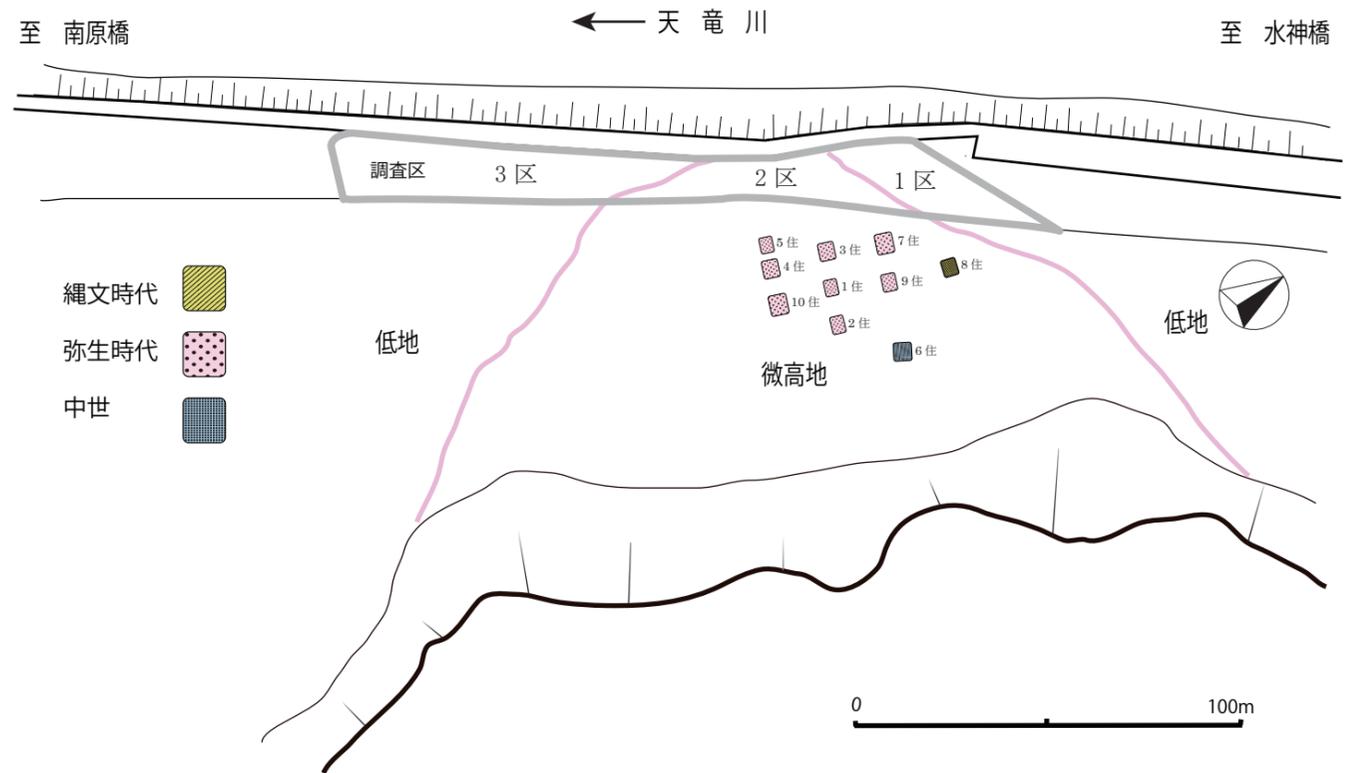
遺物：縄文時代中～晩期の土器(深鉢ほか)、石器(石錘、だせいせきふ 打製石斧、ませいせきふ 磨製石斧、さつき 削器、えんぼんがたせつき 円盤形石器、せきぞく 石鏃)



遺跡遠景(下流の南原橋より望む)

3 川原遺跡の過去の発掘調査

飯田市教育委員会による今までの調査(昭和44・45、56年)で、縄文時代後期～中世の土器・陶磁器や住居跡などが出土し、川原遺跡は天竜川沿いの最低位段丘上に立地する遺跡として重要視されていました(図参照)。



川原遺跡で見つかった住居跡や建物跡
図中の“8住”が縄文時代後期の住居跡
(飯田市教委1983『知久平遺跡群』に加筆)

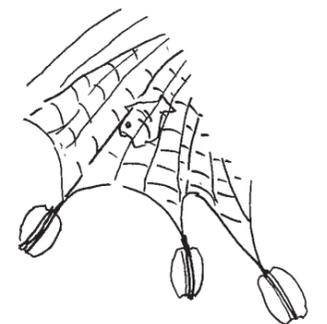
これらの遺構は、今回の調査で遺構がみついている場所のちょうど東側にあたります。

4 おわりに

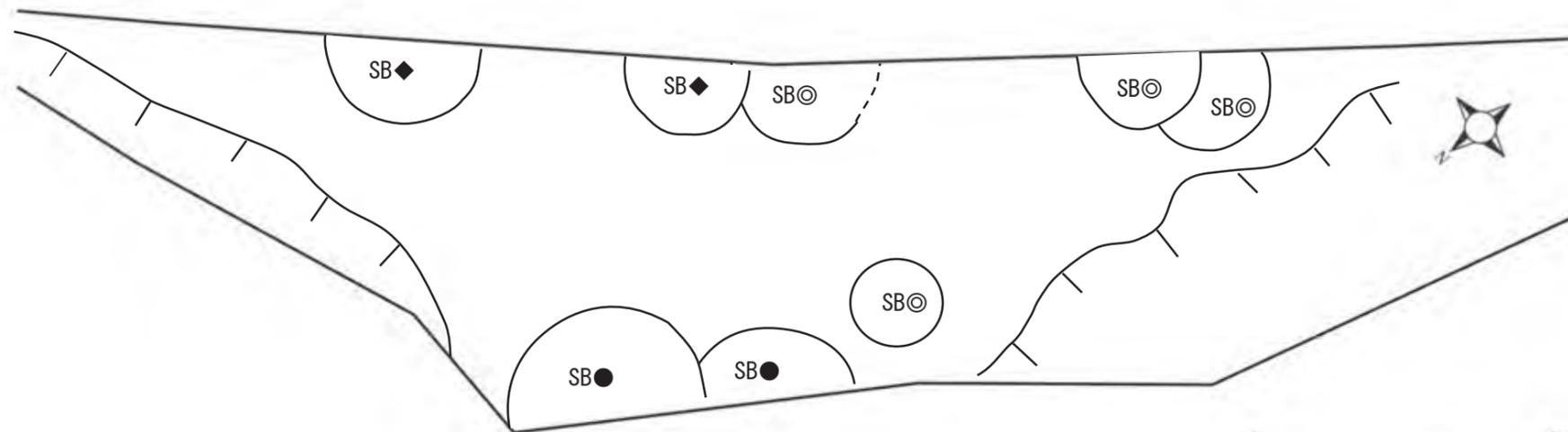
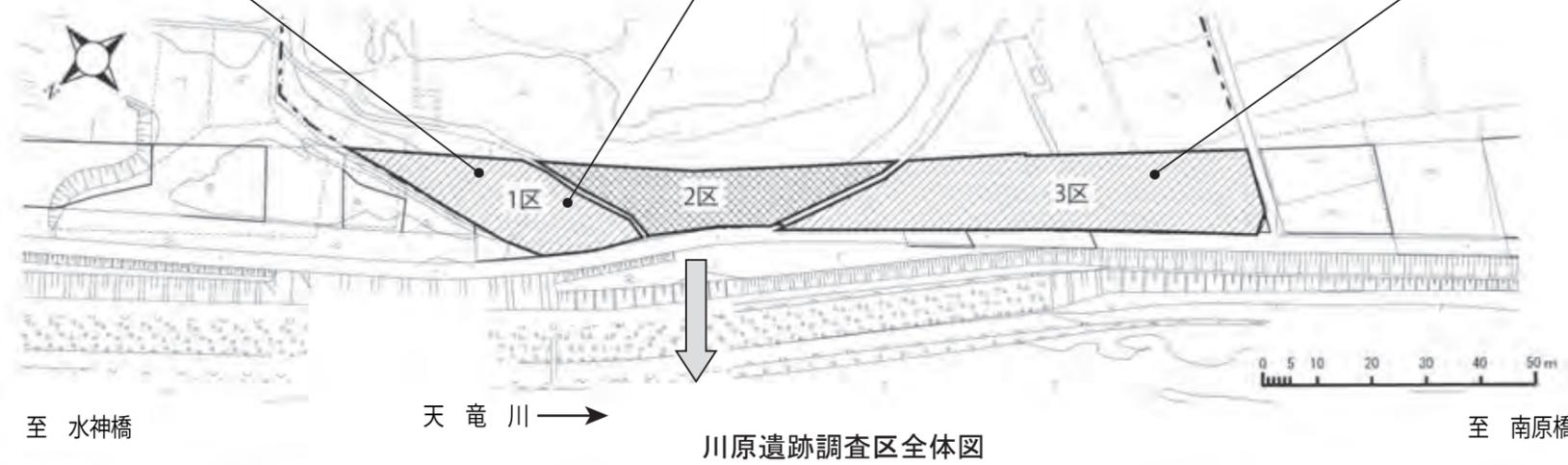
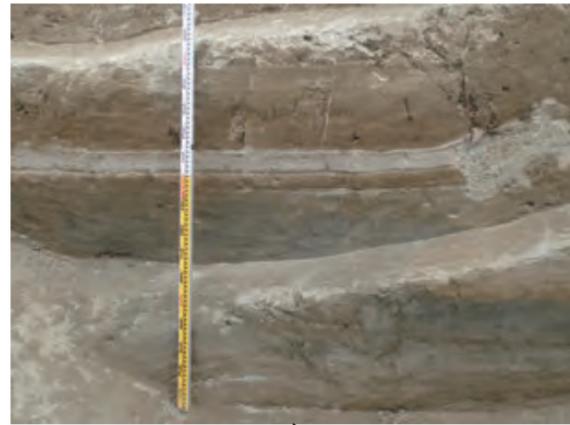
- 今回の調査では、新たに縄文時代中期の遺構・遺物が発見されました。遺構の分布する範囲は、天竜川に向かって小さな半島状に突き出した微高地上になります。この限られた場所で、縄文時代の人びとは断続的に集落を営んでいました。微高地の両側は天竜川が入り組んで流れていたと考えられます。

- 出土遺物には、漁労具として、川原石の両端に刻みを入れた石の重り(石錘)があります。飯田市内ではこの時期によく見られる資料です。

- 検出された竪穴住居跡は、全体として壁の深さは浅く、炉跡も残存状態は良くありません。後世の洪水や造成によって削り取られた可能性が考えられます。



石錘の使用例



- 〔予想される時期〕
- ◎縄文時代中期
 - ◆縄文時代後期
 - 縄文時代後期～晩期

2区遺構配置図